

研究成果報告書

2022年 8月 31日

1. 所属・職・氏名 等

文学部 英文学科 教授 加藤 めぐみ

2. 研究課題（テーマ）名

本学の大学の授業改善に関する研究領域

英語劇（ミュージカル）を通じた英語教育、英語コミュニケーション研究
（「英文学科 グローバル・キャリア・プログラム」の一環として）

3. 研究期間

2020年4月～2022年3月

4. 利用した研究費の種類及び金額

重点領域研究費交付金

2020年度 428,200 円

2021年度 579,502 円

合計 1,007,702 円

5. 研究の概要

【背景①：英文学科で実施した演劇を通じた英語教育】

- ・2017年8月都留国際文学祭において、英文学科有志により「なりきりシェイクスピア劇場」を上演して以来、「英文学史」「シェイクスピア」などで演劇のテキストを読み、舞台を鑑賞して学ぶだけでなく、英文学科では English through Drama の手法を取り入れ、英語で役を演じ、自分を舞台上で表現する喜び、体験を英語教育に活かそうと試行錯誤を重ねてきた。
- ・英文学科の学生の演劇グループは Tsuru Drama Company として、2018年2月「今井隆・大平栄子教授退官記念最終講義」での公演、2018年7月オープンキャンパス、2018年11月「スーザン・セラーズ講演会 特別公演 “Vanessa & Virginia”」、2019年8月オープンキャンパスでの「シェイクスピア劇」公演、と加藤めぐみの指導のもと、全5回の公演を重ねてきた。オープンキャンパスで観た先輩に憧れて、英文学科を志願する者も増えた。英語劇の経験は、自信となり、英語力の向上も期待されるため、2019年4月 English through Drama の授業を開講した。演劇の活動は学科のグローバル・キャリア・プログラムの中にも組み込まれている。

【背景②：文学部三学科改革室 学科横断的履修モデル「舞台芸術・映像文化」

コア科目としての“English Through Drama”】

・文学部三学科改革室は2019年度の新入生に向けて、2018年秋、文学部での学びをより魅力的なものとするために「富士山学」「舞台芸術・映像文化」「グローバル・スタディーズ」の三つの履修モデルを提案した。受験生へのOCでのアンケートでも「舞台芸術」は人気が高く、「演劇」「身体表現」「ミュージカル」「オペラ」の授業の受講生が多いことから、学生たちの間での演劇やミュージカル、映画への関心の高さが早い時期から確認されていた。

・「富士山学」は『大学的富士山ガイド』（昭和堂、2020年）、「グローバル・スタディーズ」は「TISP (Tsuru International Students Program)」に結実し、「舞台芸術・映像文化」の履修モデルは2020年3月6日7日にコミュニティーホールのアート・シアターで行った《The Wiz～オズの魔法使い》に一つの成果を見た。

・この英語ミュージカル公演では、English through Dramaの授業に始まり、夏休みのワークショップを経て、英文、比較文化、国際教育、国文、地域社会の総勢20名の学生たちが、キャスト、運営、照明、音響で力を合わせ、演出家、中原和樹氏の指導のもと、1時間40分の英語ミュージカルを作り上げた（コロナ感染拡大予防のため無観客で行ったが、映像をオープンキャンパスで上演した）。春休みに集中的に舞台を作り上げた学生たちの表情は生き生きとして、英語を使った表現力、プレゼンテーション能力が短時間で一気に高まった。

・2020年4月から上述のような背景の中で、English through Dramaの授業の枠を超えて、年に一度のペースでの定期的な公演の機会を設け、英文学科を中心に比較文化、国際教育学科などの学生たちも取り込んだプロジェクトを定着させていこう、英文学科の英語教育の特色ある取り組みであると同時に、都留文科大学全体を、山梨全域の学生たち、地域の人たちも注目する演劇活動の拠点にしていきたい、と本重点研究をスタートした。

【英語劇（ミュージカル）を通じた英語教育、英語コミュニケーション研究の目的】

1. **アクティブラーニングの実践** 英語のセリフを覚えて発表するだけでなく、演劇を作り上げていく段階から英語を使うことによって英語の四技能（スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング）を総合的にアクティブに学ぶ。
2. **生きた英語を学ぶ** 教室の外に出て実際の暮らし、活動のなかで、真のコミュニケーションのためのツールとして英語を使うことで、生きた英語を体得できる。
3. **学習が全身の体験になる** 学生たちは英語を話すのではなく、全身を使って自分を表現する。そうすることで英語が身につき、より意味のある学習となる。
4. **英語学習をより楽しくする** 学生たちは英語による相互のコミュニケーション、言葉のキャッチボールを楽しみ、幅広い役を演じられるようになる。
5. **英語を話すことへの自信をつける** シンプルで楽しい、でも奥深い演劇活動をきっかけとして、学生たちの英語に対する態度が変わりはじめ、英語がコミュニケーションの手段となる。さらに様々な役を演じることで、文字通り、自分の殻を破り、人前で英語を使うことに対する恐怖心から解放される。
6. **自分とは何か、という意識を高める** 一つの役になりきることで、その登場人物の使う言葉

だけでなく、その人物のアイデンティティ、そういった人物が育まれた社会的状況を吟味するようになる。まさにそのプロセスを通じて、必然的に学生たちは自分自身のアイデンティティをより客観的に見つめるようになり、最終的に自身が成長していくことにつながる。

【 コロナ禍でのオンラインによる稽古・無観客での公演 】

- ・コロナ禍の影響で2020年度は対面での稽古、活動が思うようにできず、新入生への参加の呼びかけも十分に行えなかったが、2021年度のはじめには1年生、2年生の新入部員が多く加わり、前期には対面授業も行われたため、活動が活気づいた。8月以降、活動指針が「レベル3・2」の期間はオンラインでの研究や発声や歌唱、ダンスの練習を月2〜3回のペースで進め、2021年10月に「レベル1.5」に入ってから、2021年11月のプレ公演、12月の本公演に向けて集中的に稽古を重ねることができた。
- ・ミュージカルの公演のために必要な著作権上の許可、シナリオ、音源を得るためにMTI(Music Theater International)に問い合わせたものの、希望する演目の日本での上演許可は得られず不可との回答を得たため、2021年度の本公演“Anne of Green Gables”の音源、シナリオも演出家の中原和樹氏からの提供を受けて行った。
- ・7月17日のオープンキャンパスではHamish Gillies先生によるEnglish-through-Dramaの模擬授業が行われ、9月の集中講義English-through-Drama 2021も好評を博した。短期間で集中的に学習することでEnglish-through-Dramaの3つの目標、1.英語コミュニケーション能力を高める 2.多言語を使いこなし、英語脳で思考する能力を身につける 3.英語でもっと自分を表現したいという意識を高める、を達成した。
- ・2021年8月16日にYCC(山梨県立県民文化ホール)でのワークショップを計画し、英語演劇を甲府市内の小学生の英語教育に導入する取り組みの実践的な体験をする予定で計画を進めていたが、8月の急激なコロナ感染拡大の影響で中止を余儀なくされた。
- ・2020年度のミュージカルの公演については、メンバー全員で一つの空間に集まって練習をすることが感染リスクを高めるので、複数のグループに分かれて準備をすすめるように「レビュー」形式を採用したが、2021年度の10月以降、コロナの感染状況が落ち着いたため、ミュージカル公演を実現することができた。

6. 研究成果等

- ・2021年3月26日にうぐいすホール小ホールで行った公演、2021年7月、11月、12月のいずれの公演についてもコロナウイルスの感染状況に応じて無観客で、また人数に制限を設けて行った。ビデオに収めた作品のYouTubeでの配信は、著作権、著作権の問題があって難しいが、2022年春のオープンキャンパスでは受験生向けに英文学科の活動として上映会を行った。
- ・当該研究を行なった2020年・2021年度はコロナ禍の影響でメンバー勧誘からはじまり練習、研究、舞台、集客、地域との交流に至るまで、当初計画していた活動が大幅に制限されてしまったが、さまざまな制約の中でメンバーを増やし、先輩から後輩へと英文学科のEnglish-through-Dramaのメソッドが受け継がれていくだけのグループに成長したことは大きな達成であった。コロナ終息後は活動の場をオープンキャンパスやアートシアター、うぐいすホール

での公演だけではなく、都留市内外の小中高の生徒との交流事業、ワークショップ、English through Drama だけではなく英語教育の授業での活用の可能性を広げていきたい。

- ・2022 年度は大学のイメージアップ事業である《富士山プロジェクト 2022》のメインイベントである 2022 年 10 月 29 日にうぐいすホールで行われる富士山音楽祭での《Footloose》の公演を準備している。2023 年度からは English through Drama の授業で新しい講師を迎え、英文学科の演劇プロジェクトとして取り込んでいきたい。
- ・2017 年に結成した「なりきりシェイクスピア劇場」メンバーから現在 Tsuru Drama Company の English-through-Drama のメソッドで英語を学んでいる学生たちの英語力の向上はめざましく、メンバーから交換留学に選抜される率も、大学院の進学率も極めて高い。交換留学ではラトガーズ大学で 2 名、カリフォルニア大学で 2 名がすでに学び、3 名が都留文科大学大学院にすでに進学、さらに 2 名が 2023 年度の大学院進学の準備をしている。うち 3 名は演劇を使った英語教育の研究を大学院において深め、英語教員になって実践することを目指している。
- ・演劇、ミュージカル作品を深く理解し、英語で舞台を作り上げ、歌い、踊り、演じるという形で自然な形で英語力を身につけていく、舞台上で思いきり伸び伸びと自分を表現する、という経験を、都留文科大学文学部英文学科で学べる特徴的な取り組みとして、今後の学科の教育の大きな柱として位置づけていきたい。
- ・英文学科の活動としてスタートした本プロジェクトであるが、比較文化学科、国際教育学科の学生も複数加わり、学科を超えた学びの機会となっている。英文学科の活動としてだけでなく、将来的には都留文科大学の特色ある学びに発展していく可能性が期待される。

7. 研究の実績（論文・発表 等）

・2020 年度公演

日時：2021 年 3 月 26 日（金）9:00-18:00 無観客にて上演、後日ネット配信

場所：うぐいすホール 小ホール

タイトル：レビュー・ショー 《 All I Need Is... 》

内容：Don't Rain on My Parade (Glee)

Raise You Up / Just Be (Kinky Boots)

Colors of the Wind (Pocahontas)

Seasons of Love (Rent)

What I Did For Love (A Chorus Line)

・2021 年度 夏のオープンキャンパス公演

日時：2021 年 7 月 17 日（土）12:30-13:00

場所：コミュニケーションホール 2F アートシアター

タイトル：英語演劇 《 Welcome to the Moon 》

・2021 年度プレ公演・本公演

日時：2021 年 11 月 20 日（土）

2021 年 12 月 11 日（土）第 1 回 13:30- 第 2 回 17:00-

場所：コミュニケーションホール 2F アートシアター

タイトル：英語ミュージカル 《 Anne of Green Gables ～ 赤毛のアン 》

・2022 年度 夏公演

日時：2022 年 7 月 23 日（土）マチネ・ソワレ

場所：コミュニケーションホール 2F アートシアター

タイトル：オムニバス形式 シェイクスピア劇 Charm Project 《Shakespeare》

演出：戸沼瑛弥（都留文科大学大学院英米文学文化専修 2 年）

・2022 年度《富士山プロジェクト 2022—つるのひと越え—》

日時：2022 年 10 月 29 日（土）16:30 開場 17:00 開演 19:00 終演

タイトル：富士山音楽祭 英語ミュージカル —Footloose—

演出：中原和樹

以上